

K program【食料安定生産】公募説明会 主なQ&A

No	種別	質問	回答
1	公募要領関係	人事異動などにより主たる研究分担者の変更は可能か。また、研究の進捗に合わせて主たる研究分担者を追加することは可能か。	原則として研究分担者の変更は望ましくないが、事情や理由等を踏まえた上で変更は可能である。但し、適切なチーム編成が求められる観点から、研究分担者の変更、追加ともPOが確認し、承認することが必要である。
2	公募要領関係	提案書に過去10年分の論文等を記載する欄があるが、行政への出向や企画部門等への異動により研究が中断している場合、研究中断期間も10年に含めるか。	研究中断期間中も10年に含める。業績の数が採否に直結することはない。
3	公募要領関係	海外在住の研究者を主たる研究分担者とすることは可能か。	主たる研究分担者として資金配分することはできない。(海外機関との委託研究契約の締結は不可)。研究参加者については、必要性や条件(情報管理、知財の帰属等)により認められる可能性がある。例えば、海外機関との共同研究や外注による実証で、研究者が現地駐在する必要がある場合等はご相談いただきたい。
4	公募要領関係	海外での実証や共同研究は可能か。	海外機関と委託研究契約の締結はできないが、実証等については、必要性に応じて採択後に個別相談とする。共同研究については、知財の契約条件によるため一概に回答できないが、大きな方向性としては可能。
5	公募要領関係	他の事業との重複についてはどう考えれば良いか。	複数の研究資金を受給することは排除されるものではない。ただし、「不合理な重複」又は「過度の集中」と認められる場合は、その程度に応じ、不採択あるいは減額配分となり得ることをご了承ください。
6	公募要領関係	研究代表者と主たる研究分担者が同一機関でも構わないか。	主たる研究分担者は、「研究代表者とは別の機関に所属し、当該機関とJSTとが締結する委託研究契約等に係る研究開発を中心的に行う者」としているため、同一機関は不可であるが、サブテーマを担う研究者として、研究開発に参画することは可能。
7	公募要領関係	プログラム実施中に知財創出が想定されます。例えば知財創出に関わる部分だけでも成果の公開を控えることは可能か。	特許出願を想定する場合、成果の公表により、発明の新規性が喪失し、特許化が困難になるため、発表前に特許出願を行う必要がある。
8	公募枠・研究内容等	FS型で、社会実装を想定した民間企業の研究者を主たる研究分担者として参画して問題ないか。	問題無い。ベストな体制を組んで提案いただきたい。
9	公募枠・研究内容等	社会実装に向けた取組として、人文科学系の研究者の参画は必須か。	人文科学系の研究者の参加は必須ではない。研究課題が採択された場合、経済性や環境負荷、社会受容性等を考慮した社会実装に向けたロードマップの策定やアセスメントに取り組んでいただきたい。その方法については、現時点の想定を提案書に記載いただき、研究開発の過程で個別に相談させていただきたい。
10	公募枠・研究内容等	若手研究者や異分野研究者を評価で優遇することはあるか。	若手研究者や異分野研究者からの提案を期待するとしているが、年齢や分野により評価することはない。
11	公募枠・研究内容等	FS型は、TRLでいくつぐらいを想定しているか。また、実証型では6年後のTRLはいくつぐらいのレベルに到達することを求めているか。	FS型はTRL2～3程度、実証型はTRL4～6がひとつの想定となり得る。しかしながら、TRLは研究開発内容により単純に当てはめることが困難な場合もあり、あくまでも目安とお考えいただきたい。
12	公募枠・研究内容等	FS型に関し、2年後のSG時の目標は、提案者側から設定して構わないのか。	目標は提案書に記載いただくこととなっている。採択後必要に応じてPO・分科会委員により見直すこともある。その目標が達成されたら実証型への移行というわけではなく、あくまで総合的に評価を実施し、移行の可否判断を行う点にご留意いただきたい。
13	公募枠・研究内容等	FS型から実証型への提案・評価において、他のFS型と連携し提案することは可能か。	提案者間で合意の上であれば可能。
14	公募枠・研究内容等	実証型とFS型どちらを選ぶべきかの定量的な判断基準はあるか。	定量的な判断基準はないが、実証型は終了後に社会実装に進んでいただきたい。FS型はよりチャレンジングな研究であり、実証型移行後は研究終了後に社会実装に繋がっていただきたいので、それらを踏まえて提案いただきたい。
15	公募枠・研究内容等	実証型とFS型における、実用的な技術としての重要性・実現可能性と、学術的な新規性や挑戦度についての考えを知りたい。	研究開発終了後の社会実装を想定し、ラボスケールに留まらない実際に近い環境で実証していただきたい。技術の有効性はラボスケールと現場ではギャップがあるため、それを乗り越えられる研究開発を期待している。また、社会実装のためには、メカニズムの解明等、学術的な観点も重要であり、新規性等も意識したゲームチェンジングな提案を期待している。
16	公募枠・研究内容等	実証型において、「研究開発と並行して、社会受容性、環境負荷、経済性等の観点からも検証する」とあるが、前者と後者の求める比重は異なるか。	本構想においては、アウトプット目標の達成に資する革新的な成果の創出のための研究開発が主体である。同時に創出された成果を社会実装に繋げることも重要であり、経済性や環境負荷、社会受容性等も考慮に入れたロードマップの策定やアセスメントに取り組んでいただきたい。その方法については、現時点の想定を提案書に記載いただき、研究開発の過程で個別に相談させていただきたい。
17	公募枠・研究内容等	構想名にもなっている「合成生物学」とはなにを指しているか。	本構想は特定の技術を要件とするものではなく、従って、「合成生物学やデータ科学等の先端技術」としている。構想名に例示された技術分野に拘泥されることなく、柔軟な発想でご提案下さい。
18	公募枠・研究内容等	肥料生産、省肥料化、肥料成分の有用活用等の柱をすべて包含する必要があるか。	示したものはあくまで例示であり、すべてを包含する必要はない。例示を参考にした上で提案していただきたい。
19	公募枠・研究内容等	省肥料作物については、イネやイモ類以外にも研究の対象となるか。	イネやイモ類以外の主要な農作物や飼料も対象となる。
20	公募枠・研究内容等	農耕地土壌だけでなく、水耕栽培(植物工場など)における減肥に関する研究開発もFS型、実証型の対象となるか。	対象となる。提案内容が公募のスコープに合致するかどうかについては、研究開発構想、PO方針をよく確認した上で提案していただきたい。
21	公募枠・研究内容等	肥料成分の使い方として必ずしも減肥料ではなく、土壌の健全性を目標とするという視点でもよいのか。	ブラネタリー・バウンダリーにおいては、窒素やリンの生物地球化学的循環は人類が安全に活動できる限界を超えているとされており、土壌の健全性は持続的な生産の観点から大きな方向性としては合致していると考えられる。しかしながら、研究開発の目標設定はあくまでも研究開発構想やPO方針に従うものであるため、これらをよく確認した上で提案していただきたい。

※説明会で寄せられたすべての質問を掲載しているわけではございません。また、一部質問の内容を改編した上で回答している場合や、当日口頭での回答をこちらで補足している場合がございますので、ご留意ください。